

121	情報はあくまで素材である。その素材をきらきらと輝かせるのは人間の頭脳である。	瀬島龍三
122	セコムの仕事を通じて、担当している仕事を通じて、諸君の考えていることを具現化できるから、結果としてセコムのためになる。 〈会社のために働くと思うな。自分のために働け〉	飯田 亮 (セコム社長)
123	要領よく、小器用にはではなく、まともに努力し、汗水を流し、困難という流水を喜んで飲んでこそ、はじめて組織と人は育つ。	同上
124	難局に際しては柳のようにしなやかに、そして困難の中にこそやり甲斐を感じるようなしたたかさを持ちなさい。	友澤 潤次郎
125	時間には3種類ある。1つは存在時間、1年は365日、1日は24時間という物理的時間。2つ目は、感覚時間。楽しい時間は、あっという間に経つし、嫌な時間は、なんと長いことか。3つ目は体内時間。朝は目を覚まし、所定の経過で腹が空くといった生体リズム時間。この後の2つは、人間の中にあるもの。人生の持ち時間を如何に有効に活用するか。物理的時間は万人に限られたものしか与えられていない。	東光電気 社長 佐藤 友光
126	“できない”理由は3つある。第1に今までのやり方ではできない。第2に今すぐに100パーセントはできない。第3に自分一人あるいは自分達の部署だけではできない。大切なのは、“できない”と思える難局をどう乗り越えるかを考えチャレンジ精神を持って実行して行くことである。	日本テレコム社長 坂田 浩一
127	企業活動の多くは結果において成功と失敗のようにデジタル的に1.0と0.0とに大きく分れる。しかし、そこに至るまでのプロセスの1%の差、即ち0.01の差が結果を1.0にも0.0にもしてしまう。その差を埋める最も大きな要因は執念の差であろう。たいがいの企業、たいがいの人は“もう一步の努力”を怠っている。	堀 紘一
128	命がけよりも心掛けで仕事をして欲しい。 魚や野菜や果物などの食材を扱うように人にも旬と呼べる時期がある。	樋口 廣太郎
129	人を活かすには適材適所と同様に、その人の「旬」の時期にそれにふさわしい仕事をもらうのが大切。	樋口 廣太郎
130	物事が上手く行かないときは、形から入る。	樋口 廣太郎
131	仕事は前に投げ出すことが肝心。最優先して取り組まなければならない仕事を選び出し、それを自分の一步前に投げ出して、それに向かって集中する。	樋口 廣太郎
132	仕事はやらされるものではなくて、自分から選んでやるもの	樋口 廣太郎
133	チャンスは貯金できない	樋口 廣太郎
134	事を計るは人にあり。事を為すは天にあり	天辰 祐之郎
135	人並みのことをやって、人並み以上になれると思うな。 努力しないで、良いことがあると思うな	西室 泰三
136	どのようなテーマでも、何のためにそれをやるのかという目的を徹底して分析して行く。実はこの段階で成否の90パーセントは決まる	唐津 一
137	世の中は動いている。たとえ理論は止まっても	勝 海舟
138	第一人称で考えよ。第一人称で行動せよ。トライアル・アンド・エラーで積極的に取り組む。	真藤 恒
139	風当りの強いものには、ニーズが隠れている。	澤田 秀雄
140	方針とは、基本理念＋具体的目標＋理想である。	江口 克彦
141	苦中の楽こそが真楽であって、それが分った時、人生の妙趣が分る。 逆境を楽しみ、人生をしぶとく生きる。	伊藤 馨
142	平凡な努力の積み重ねが非凡な結果を生む	鉄屋 一夫

143	人を動かすには体験して汗をかけ	川上 武四郎
144	起業家として成功するためのポイントは、目標を持ち続けること。 行動力。事業について隅々まで知り尽くしていること。そして、人脈。	三澤 千代治
145	企業というのは、リーダーの力量や器量以上には成長しない。	福原 慶一郎
146	勝ちも偶然、負けは必然。	羽生 善治
147	組織に入ったらまず一人、既に在籍しているひとのファンになりなさい。	北野 大
148	個人の目的と会社の目的が少しずれている異新円でも、相対的に見ると お互いの円がかなりの面積で重なり合っている。この形が良いのである。	森村 誠一
149	経営には、踏み切り、割り切り、思い切りの3つのキリが絶対に欠かせない。 戦術は、研究と普及の2キュウである。	山田 晃
150	先行ランナーがこれまで走った後を追いかけて、追いつき、追い越す、と云う「抜き去り」の 戦略思考でなく、先行ランナーがこれから走って行く方向を見定め、その場所に 最短距離でいち早く先回りするという「先回り」の戦略思考が重要。	田坂 広志
151	その先を読み、そこから戦略思考が始まる。その戦陣を築け、そこから 戦略考行動が始まる。 第1に、市場における「主戦場」の移行していく方向を見定める。 第2に、その場所に「先回り」をして、そこに「戦陣」を築く 第3に、その「主戦場」が移行して来るのを待つ。	田坂 広志
152	過去の成功体験が、未来の失敗要因になる。	田坂 広志
153	己に勝つを賢とし、己が負けて悩むを愚とす。	鈴木 正三
154	思想なき技術に進歩なし。技術の真価は、それを持つ人間の思想に支配される。	本田 宗一郎
155	人間は万事、酒の味と心得ろ。 アマ、カラ、ピンの味が出ないと一人前にならない。	本田 宗一郎
156	成功は、99パーセントの失敗に支えられた1パーセントだ。	本田 宗一郎
157	どのように優れた工夫や発明でも、必要な時に提供できなければ何らの価値もない。 「6月のあやめ、10月の菊」は商品価値はゼロである。	本田 宗一郎
158	人を動かすことのできる人は、他人の気持ちになることができる人である。 その代り、他人の気持ちになれる人は自分が悩む。 自分が悩んだことのない人は、まず人を動かすことができない。	本田 宗一郎
159	人間、生きて行くのに必要なのは、運・鈍・根である。 運・不運の運、鈍感の鈍、これはつまりバカになれということ。そして3番目が根気。	田原 総一郎
160	寝ているものを90度立たせるためには、180度動かすつもりでやって丁度立つ。 どんな仕事でもいささかの手を抜いてはいけない。	村井 勉
161	いま勤めている会社は、自分を教育してくれる「道場」だと考えろ。 「道場」だと割り切れれば、つらい仕事もうれしくなる。 すべての無理難題は、若い自分に与えられた貴重な試練である。	大前 研一
162	サブシステムがあってもメインである。サブとメインはどちらが上ということではない。 たしかに、歴史に名を残す人と残さない人がいる。しかし、自分がいる場所で、 一流の仕事振りをしておけば、あとに続く者の中で名もない人を評価する者がいる。 サブシステムまで主眼を置かなければ、本物になれない。一流の仕事人にはなれない。	京谷 好泰
163	理解がなければ納得がない。納得がなければ行動がない。	京谷 好泰
164	20代は根を張る時期。30代は芽を出す時期。40代は花が咲く時期。 50代は実の成る時期。60代は種まく時期。	飯塚 昭男
165	仕事に際しても品物(部品など)をバトンだと思って手渡しなさい。	

	次工程への気配り、気遣いやバトンタッチゾーンの考え方が大切である。	若松 義人
166	自分が変わらないとチームは変わらない	若松 義人
167	技術者とは、技を述べる人ではない。行動を求められる人である。	豊田 喜一郎
168	理論や知識を上手に語る技術者になるな。 行動をする技術者になれ。	大野 耐一
169	できない理由をあれこれ考える暇があったら、どうするかできるかを考えよ。	大野 耐一
170	先見性のあるリーダーとは、夢を語れるリーダーということ。 どんな逆境にいても、夢さえ持っていれば人は前向きに生きて行くことができる	樋口 廣太郎
171	人間には差はなく、違いがあるだけ。差とは、大きいとか小さいとか多いとか少ないとかと いう数量的なもの。違いとは、個性だり、異質であるということ。 そのような社員一人一人の違いを尊重し、どう活かしていくかが、マネジメントの仕事。	河島 喜好
172	いくら偽金を見せても偽金を選別できるようにはならない。本物を見せなさい。 年中体に本物を触らせれば、偽金が自然に分けられるようになる。	小林 秀雄
173	1対1.6対1.6の二乗の法則 普通に「何々をきなさい」と云われて仕事をした時、その人は多分1の仕事しかしない。 だが、もし自分で納得して、進んでその仕事に取り組めば、1の指示に対して1.6倍の仕事をする。 さらに、その仕事を最初から自分で考え、自分で計画を立てて実行すれば、 1.6の2乗 即ち約2.5倍の仕事ができる。	船井 幸雄
174	一人前の社会人として必要なもの。 ①約束を守る。 できない約束はしてはいけない。 ②自主的にやる。 自分に責任を持つ ③逃げない。 逃げると危険は2倍になる。 勇気を奮って正面から取り組めば、危険は半分に減る。 ④自慢しない。 いつも謙虚であれ。 ⑤人の足を引っ張らない。	船井 幸雄
175	教育(エデュケーション)にはエデュケーレ、引っ張り出すという意味がある。 つまり、人を教え育てることは、その人の持つ独自固有の長所を引出し、やる気を起こさせること。	船井 幸雄
176	過去と他人を変えることはできないが、自分と未来は変えることができる。	椎木 正和
177	自分が燃えなければ他人の心に火はつけられない。 自分の心の中にある情熱の炎を燃やし続けろ	加藤 充
178	能力の差は5倍、意識の差は百倍だから、もうちょっと 人より一歩だけでも進歩しろ。 能力は磨いて上げるのは難しいが、意識は磨けば磨くほど上げられる。	永守 重信
179	プロ経営者の条件 ①自分の信念をどんな状況でもはっきり述べる ②嫌なことから逃げない ③健康	永守 重信
180	成功するには、ベーシックな素質と運は大きい。 ただ、運は必ず努力が引き寄せるものだと思う。 運はいつも目の前を通っている。努力しないと通り過ぎて行くけど、 努力しているヤツは1個位は引っ張れる。運が良いヤツっていうのはみんな努力している。	見城 徹
181	目指す夢がある限り、どんな困難でも乗り越えられる。	板倉 美紀
182	リスク管理の第一歩は、自分の事業のどこに、どのようなリスクがあるのかを正確に把握すること。 そして、そのリスクの1つひとつに合せた処方箋を作ることである。	福間 年勝
183	リスクを因数分解すると、問題も対応も鮮明になる。 複数の問題を1度に総合的に考えようとすれば、どうしてもリスク管理は甘くなってしまう。	福間 年勝
184	Shrink to grow。ジャンプする前に身を縮めるように、成長するためには	

	1度小さくなる。スリムになって復元力をつける。	福岡 年勝
185	絶えずシナリオを持つ。そして絶えず修正する。 いま考えられる材料から10年後のシナリオをいくつも考える。 その中から最も可能性が高いシナリオを選択し、その10年後の想定から 今度は現在を見て、今何をしておかなければならないかを考える。	福岡 年勝
186	いつも一人称で考える。他人事で考えない。 考えたら行動する。行動することで見える世界がある。	福岡 年勝
187	ピーターの法則:誰もが無能なレベルに達するまで昇進する。 あるレベルで有能であっても、昇進するにつれ、より責任の重い仕事に なってくるから、どこかで才能がなくなり、無能性を露呈する。	藤原 和博
188	金メダルを獲った瞬間に、それまでの努力は全て報われている。 それから先も過去の栄光でいい思いをして行こうというのは甘い考えである。	重里 俊行
189	会社には「人」がリーダーシップである時代もある、それは創業者の時代。 しかし、最終的にはリーダーシップ/求心力は、「企業理念」/ビジョンであって、そこに全員が帰属し、 その理念に向かって努力して行くこと。それが、会社を伸ばす原動力になる。	出井 伸之
190	トップメーカーは、今日・明日のことだけでなく明後日のこともしっかり考えに入れているのに 対し、3位以下のメーカーは、昨日・今日の延長戦上でしか、明日のことが考えられていない。	出井 伸之
191	常に今日1日の最適解を求め続けている人と、最初から1か月後のことを考えて 解を出した人とは、全く違った地点に辿り着くことになる。	出井 伸之
192	目的と手段の関係をはっきり認識していれば、誰でも同じ判断をすることができる	御手洗 富士夫
193	企業というのは、人間の体と同じで「複雑系」である。 体の中には心臓の動き、胃腸の動き、血圧などのように自分の意識でコントロールできない ものがある。自分で指を開いたり動かしたりはできるけれど、その筋肉の動きを全部意識して コントロールしている訳ではない。コントロールできるのは、そのほんの僅かの部分。 だからこそ、エンパワーメント、即ち権限の委譲がとても重要。	出井 伸之
194	「収心の則」 人の長所を初めより知らんと望むべからず。 人は用いて初めて長所を知らるるものなり。	荻生 徂徠
195	人材は必ず欠点あり、欠点なき人材となすに足らず。	荻生 徂徠
196	人は必ず一癖あるものなり。器材がない故なり。癖あるが故に捨つるべからず。 斯くして良く用ふれば事にも適し、時にも応じる程の人物は必ずこれに有り。	荻生 徂徠
197	アイデアの秘訣は執念である。	湯川 秀樹
198	人間が見えなくなれば、情報も知識もかすむだけ。 知識は知識のまま宙に漂ったままで、人間のものとはならない。生きた知恵とはならない。	河島 喜好
199	生きるということは、逃げないということである。 逃げないということは、苦難を苦難として味わうことである。 苦難の体験は、小さな難事に対する自信を、より大きな難事に対するに気力を植え付けてくる。	新川 柳作
200	楽観的に構想し、悲観的に準備・計画を立て、しかるのちに楽観的に実践する。	三井 高利
201	3つの目が大きな仕事を生み出す。 ①物事について、目先にとらわれずに見る「長い目」 ②一面だけを見ないで、多角的、全方位的に見る「広い目」 ③枝葉末節にこだわらず、本質を見る「深い目」	佐藤 満
202	開発の過程には筆舌に尽くせぬ幾つかの困難があった。 しかし、未来に生きるものは、過去の苦勞を忘れる。	山本 健一
203	人材を育てる方法は、ただ一つ。仕事をさせ、成功させることである。 成功体験が人を育てる。さらに大きな仕事をさせる。	

	人と仕事の美しい循環を成立させることである。	西堀 榮三郎
204	チャンスは逃すな。まず決断をせよ。石橋を叩くのは、それからである。	西堀 榮三郎
205	チームワークの要件は、目的に対する共感、誇りと恥の意識である。過度の功名心・功名の独り占め意識は、チームワークの大敵である。	西堀 榮三郎
206	体を動かすと流れてくるのは汗 心が動くと込み上げてくるのは涙。 空気が動くとうまれるのは出会い。	丸山 浩路
207	運は相によって決まる。相が良ければ運も良くなる。 相を良くするには、心を養うとともに、常に何かを心掛けねばならない。	安岡 正篤
208	心が変わると態度が変わる。 態度が変わると行動が変わる 行動が変わると習慣が変わる。 習慣が変わると人格が変わる 人格が変わると出会いが変わる。 出会いが変わると運命が変わる 運命が変わると人生が変わる 。	丸山 浩路
209	人財、人材、人在、人罪 →使いようによっては役に立つし、使い方を誤ると役に立ってくれない。	
210	男に必要とされる資質は、しなやかさ、したたかさ、つややかさ。	池辺 五郎
211	生きるということは冒険し続けることである。	池辺 五郎
212	何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。 やがて大きな花が咲く。	高橋 尚子の 中澤先生
213	問題とは、かくあるべき姿を真剣に求める人へののみ、その真の姿を現す	土光 敏夫
214	病気、不運・・・人生の間直しのチャンス	糸井 重里
215	言い訳をする頭で実行することを考えよ	大野 耐一
216	百聞は一見にしかず、百見は一行(行動)にしかず。	大野 耐一
217	下の人に何かを言う前に、まずはスタッフ自身、そして部長や工場長が変わらないと決してラインは変わらない。 その上で、みんながやる気を起こすテーマを見つける。何かを本気で変えて行こうとする時には、人任せにするのではなく、みんなと一緒に、フォローする仕組みが欠かせない。	大野 耐一
218	仕事の報酬は仕事である。そして仕事の報酬は成長である。	田坂 広志
219	仕事は辛くて当たり前。楽しかったら金を出せ。 本当に満足できる仕事は、本人が一番知らない。 嫌いな仕事は宝の山。きつい仕事は、宝に近づく人を防ぐ壁。	野村 正樹
220	仕事には「良い不満」と「悪い不満」がある。 「良い不満」は人を成果に導くが、「悪い不満」は人の成長を休ませる。 しかも、本当の満足は、不満の中に隠れている。	野村 正樹
221	運命に対して受け身になってはいけない。思い通りにはならないが、思い切り活かす努力はできるはず。	野村 正樹
222	成功の方法や中身は様々でも、共通する一つの事実がある。 成功する人は、皆“感動の物語”を持っていることだ。	野村 正樹
223	出る杭の7つの真実 1.出ない杭は、目立たない 2.埋もれた杭は、ただの木片 3.出ない杭は、すぐ腐る 4.出ない杭は、いつかは悔いる。 5.出過ぎても立派な杭は打ちづらい。	野村 正樹

	6.出る杭は打たれてもっと強くなる。 7.出る杭も束になったら怖くない。	
224	不満は苦い良薬。満足は媚薬。 今日手にする不幸のネタは、明日幸運という名の花になる。 いつかは幸福の実をつける。	野村 正樹
225	凡人は不満を嘆き、賢人は不満に学び、達人は不満を活かす。 そして、達人は不満をも楽しむ。	野村 正樹
226	1度良い習慣を身につけてしまえば、その人にとってはそれは当たり前の 生活のリズムになる。必要なのは、最初にちょっと力を加えて物体を動かす ように、新しい習慣に一步踏み出すこと。	日野原 重明
227	ビジネスで大切なものは、“信頼”、“時間”、“能力と得意技”、そして最後に“お金”	堀 紘一
228	人から「信頼」され「時間」を上手に管理し、自分の「能力」を高めながら 一生懸命に仕事に打ち込むことに「お金」はそんなにかからない。 その3つをひたすら実行していれば、気が付いたらお金が入ってくる。	堀 紘一
229	夢は持つだけではダメ。日々その夢に向かって一步一步着実に近づいている という実感を持てるようにならなければならない。 正夢になるような夢を見て、それを実現させるためのプログラムが必要。 それが方向性であり松明をかざすということであり、もう少しアカデミックな 言葉で云えば「戦略策定」ということになる。	堀 紘一
230	凡人が天才になることはできない。だが、凡人でも小さな失敗を繰り返し 直接体験することで賢人になることはできる。小さな失敗を次々経験する ためには、常に新しい挑戦を試みて行かなければならない。	堀 紘一
231	人を育てる5つのステップ ・基本的な見方、考え方をしっかりと教え込む ・目的を示し、やり方を考えさせる ・やや難しい問題に挑戦させる ・最後までやり遂げさせて、自信をつけさせる ・本当に困った時は、いちでも相談にのる。	張 富士夫
232	文章に例えたなら、人が大きな興味と関心を持って読んでくれる本文が書けるのは40代であり、 50代及びそれ以後はその本文にもっともらしい注釈をつけていく時代である。	鈴木 健二
233	仕事には目に見えない4つの報酬がある ・この職場でいったい何が学べるのか。 知識報酬 ナレッジリターン ・どのような人的ネットワークを築くことができるのか 関係報酬 リレーションリターン ・仕事を通じて自分の業界での評価を高められるか 評判報酬 ブランド ・人間としての成長の目標となるような上司がいるか 成長報酬 グロース	田坂 広志
234	プロフェッショナルを目指す共通のスタイル…師匠から体得する3つの心得 ・師匠の技の背景を見よ ・師匠と同じ部屋の空気を吸え ・共感の心を持って	田坂 広志
235	見えない報酬とは「能力」 まぎれもない仕事の報酬 「仕事」 一生懸命仕事をすると良い仕事が残せる 「成長」 一生懸命仕事をすると人間として成長できる	田坂 広志
236	一流のプロフェッショナルとしての能力を高めるためには ・師匠を見つける…直伝 3つの基本 ①呼吸…リズム感、バランス感覚(スキルの本質) ②着眼…反省するため、経験、反省を通じてスキルを磨く ③心得…スキルの奥には優れた心得がある そして一芸を学ぶ	田坂 広志
237	目の前の職場は、我々の心が映し出された「鏡」である。 他人の中にある「欠点」は、必ず自分の中にもある	田坂 広志

238	緊張感を持って人々に接すれば、必ず3通りの人間に出会うことができる ・学べる人 ・語れる人 ・学ばせる人	日野原 重明
239	いつか達成したいと思う卵を3つ4つ抱いておきなさい	小柴 昌俊
240	成功する人は ・周囲が感心するほど勉強をし、かつ仕事を熟していること ・部下や周囲を大事にする。多少きつい言葉を吐くことがあるが必ずきちんとフォローし、自分の考えを語る。 ・感謝の気持ちを素直に表現する	堀 紘一
241	成功は、チャンスと準備の出会いである 眼の前にチャンスが転がっていても、それを生かす準備をしていなければ、成功に結び付かない	武村 健一
242	人間は生まれながらにして3つの資源を持っている。「心」、「時間」、「言葉」	武村 健一
243	青春とは心の若さである。信念と希望にあふれ、勇気に満ちて日に新たな活動が続ける限り、青春は永遠その人のものである。	松下 幸之助
244	若い時に流さなかった汗は、老いてから涙となって返ってくる	中村 清
245	あるべき技術者員像 ・まず自らビジョンを持つこと ・基礎理論の理解を高め、新しい技術は勇気を持って採用すること ・複合的な技術が要請される現状では関連分野について自ら学ぶこと ・一人の天才のひらめきより調和のとれた技術者団の研究開発の方が成果ががる ・特許申請は積極的に提出しよう	高柳 健次郎
246	プロというのは、次なる常識が作れる人間ということである。そのためには、努力はもちろん必要だが、自分に合った、つまり好きな仕事にすべきである。	田原 総一郎
247	人は安泰の時は仕事をなまけ、苦しい時には励むものだ。だから苦しみに合うことは、次の発奮のきっかけになることだ。苦しむことだ。若い時は、苦しめば苦しむほど良い。	手塚 治虫
248	人生不連続きの中で、くじけることなく何か心掛けてさえいれば、いつか一直線に駆け抜ける日がくる。	城山 三郎
249	運という字は「運ぶ」から来ている。つまり、自分で運んで来るものである。	城山 三郎
250	魅力を感じるリーダーというが、人間は常にあるべき姿を求めていることが1つ。それから、生き生きしているということ。それは教養とか文化に対する関心だけではなくて人間に対する関心、好奇心を失わないこと。3つ目が卑しくない、ということ。	城山 三郎
251	社外に通用する人にならなくてはならない。「あの人間なら」というには、ある意味では会社の枠を超えている。そういう意味で、ある程度社外に人脈を持たないとイケない。幅広くは必要ないが、本当に支えになってくれる人が社外にいる。そういう生き方が大事になる。	城山 三郎
252	運は寝て待てというが、あれはとんでもない嘘。運は水の上を流れていると思う。だから、命がけで飛び込んで掴む度胸と、掴んだ運を育てる努力がなければ、運はわが身に宿らぬ。	城山 三郎
253	人間望みが高ければ、人生に退屈しない。人生にはマサカという坂がある。	生島 ヒロシ
254	人の幸せは、感動の体験と感謝の思いを1つでも多く持つこと。	北野 隆興
255	1つ2つくらい努力すれば、あとの8つ9つはサムシンググレートが応援してくれる。ピンチこそが成功の節目となる。	
256	行動には常に動機があり、目的がある。行動という刃物が利器となるか凶器となるかは、その行動を支える思想あるいは理論が、正しいか正しくないかによって決まる。	本田 宗一郎

257	創造的不満を持って将来を予知し、横たわる試練に臆することなく立ち向かっていく 勇気と若さを持つ。	河島 喜好
258	同じ情熱を傾け続けられることを才能という。	羽生 善治
259	人生はすべては勝負である。勝負のすべては闘志と努力である。	石田 退三
260	キーテクノロジーを見つけるために必要なエネルギーが1とするならば、 実際に商品を生産する過程で必要とされるエネルギーはその10倍、消費者に 商品を買ってもらうためのマーケティングにおいては、その100倍が求められる。 1:10:100の法則	中村 末広
261	人を動かすのは「テコの原理」である。 支点となる台座の役目を果たすのは「目標」であって、テコの棒となるのは「日程」である。 これが人やチーム、ひいては組織を動かすテコである。	中村 末広
262	今日花は一杯咲いている。しかし、明日咲くつぼみを持っているか、という着眼が 大事である。将来に備えて、やるべきことをやった上での利益でなければ、 本当の利益といえない場合がある。	後藤 清一
263	心に「志」がなければ、ヤングじゃない。 生き方に「筋」がなければ、ミドルじゃない。 3つや4つ額に「向う傷」がなければ、アダルトじゃない。 過ごし方に「自信」がなければ、男じゃない。 たった一度の人生を「まじめ」に生きなくて本当にそれでいいのか？	後藤 清一
264	日々に「反省」がなければ、管理者じゃない。 日々に「戦い」がなければ、男じゃない。 日々に「努力」がなければ、人生じゃない。 日々に「愛」がなければ、人間じゃない。 たった一度の人生を「生きてて良かった」と胸を張れるようにならなくて、それでいいのか？	後藤 清一
265	人生を勝ち抜くための要素は ・「苦勞」しているか ・「勤勉」であるか ・「持続」しているか ・「知恵」を出しているか ・「勇気」を出しているか ・「明るさ」を持っているか の6つに尽きる。 この6つの要素は、すべて後天的なものだから、人生を勝ち抜けるかどうかは 誰のせいでもない。自分自身の努力にかかっている。	後藤 清一
266	仕事は執念を持ってすべし。情念の情とは、「情熱」であり、念とは、「今の心」である。 仕事に臨んで情熱もなく、心ここにあらずでは、ロクな仕事はできない。燃えるような 情熱を持ち、今ここにしっかりと心を持って仕事に当たることが大切である。	後藤 清一
267	良き中間指導者の10の条件とは、 ①才能より執念を持って ②絶えず真実を求めよ ③体験と失敗と苦悶の中から伸びよ ④グチをいう前に自分を振り返れ ⑤自らの手を汚せ ⑥部下に優越感を持たせる位にせよ ⑦自分の声をテープで聞いて見よ ⑧若い力を盛り上げろ ⑨細かい積み上げを見よ ⑩得意芸にミスが出ると自戒せよ	後藤 清一
268	人生は花に始まり花に終わる。社会人になることは、大きな花を割かせるチャンスだ。 この世に生きる技術で何より重要なのは、自分の内なる光に忠実でることだ。 金は石にならないし、石は金にならない。努力を過大評価してはいけない。 己を知り、過ぐすなかれということだ。 評価は他人が行うもの。成果は自分が得るもの。会社という舞台上で自分の“芸”に 全力を傾けることだ。人生は歩いている「影」なのだ。人には誰でも「春の日」があるものだ。	深津 建一
269	今は最善でもそれは今の時点であって、今はすでに過去である。	米長 邦雄
270	力を抜かずに継続していれば道は拓ける	野茂 英雄

271	手段が目的化すると人は停滞し、組織は衰退する	
272	才能とは、同じ情熱、同じ気力、同じモチベーションで持続することである。	羽生 善治
273	不思議に思うこと、これが科学の芽です。よく観察して確かめ、そして考えること これが科学の茎です。こうして、最後に謎が解ける。これが科学の花です。	朝永 振一郎
274	人生すべては勝負である。勝負のすべては闘志と努力である。	石田 退三
275	「出世」とは「世に出る」と書く。会社に評価してもらうためではなく、どこに行っても 通用する自分になるために頑張ること。高い志を持って努力をし続けていれば、いい組織なら 必ず誰かが目に留めてくれる。そして、それに伴って結果的にポジションもついてくる。	藤巻 幸夫
276	縁尋機妙 縁が尋ね巡って縁が縁を生み、至る所で不思議な作用を及ぼす	橘 曙賢
277	小さなことを積み重ねることが、とんでもないところへ行くただ一つの道。	イチロー
278	キライなことをやれと云われてやる能力は、後で必ず生きてくる。	イチロー
279	逆境の中でも努力する人間を、運命は裏切らない。必ず道は拓ける。思いは叶う。	プロジェクトX
280	努力は大切であるが、それだけでは大きな成果が得られるとは限らない。肝心なのは、 努力の方向と方法論である。それが天性の劣る部分をカバーする大きな力となる。	野村 克也
281	成功するということは、保守的になることだ。成功したと思うこと、それが即ち マンネリ化と保守化、形式化、慢心を生む源だ。良好な時こそ、好調な業績に踊らされる ことなく、足を地面につけて将来のビジョンをしっかりと策定する。	柳井 正
282	仕事の楽しさとは、良い結果によって得られるものではなく、自分の夢を達成する 過程の中にある。「努力」と「楽しさ」は両立しない。自発的にやる仕事からは 「努力」という二文字は消える。自発的な仕事には「楽しさ」という言葉が似合う。	藤巻 幸夫
283	人間の力は「貯金」できない。力を抜いたり、全力を出さないでいると、持っている 力は減って行く。→力は貯めるな、出せ。そうでないと、人は大きくなる。ない。 (お金と人は相対する)	山口 良治
284	技術者にとって一番重要なのは自己管理能力。つまり、期限までに何とかするという。こと。 完成までのスケジュールをしっかりと立てることができ、そこにはどんな技術的困難が あるかが見えていて、自分を管理して律することができる。一人前の技術者。	茂木 健一郎
285	リーダーに必要な資質は、共有化できるビジョンを示せること。 そして、決してブレない軸を持っていること。	
286	玲瓏・・・周囲を見渡せる状況。透き通った心静かな気持ち。克己復令礼。	羽生 善治
287	全体を判断する目とは、大局観である。その思考の基盤になるのが勘、つまり直観だ。 直観力の元になるのは感性である。	羽生 善治
288	映画の世界での仕事上の「アイウエオ」 アはアイデア。イはインタレスト。共通のアイデアを持っているかどうか。 ウが動きと一緒に動けるかどうか。エはエキサイティングですから、燃える 時期があるかということ。そして最後のオがオーナーシップ。オレが作ったんだ という自負心が持てる。これが映画作りに欠かせない5つの要素。 会社の仕事でも同じだし、人間関係における鉄則そのもの。	藤本 義一
289	才能とは、天が人間に貸したものだ。人間は磨いてもっと人の世のために使うべきものだ。	司馬 遼太郎
290	陽気なる秘訣は、明日はもっと良くなると思いこんで暮らすこと。	司馬 遼太郎
291	日本の大衆車は、例えば5年落ちだともう価格がただになるんです。 ところが、フェラーリなんかは10年経っても価格は下がらない。人間も同じです。 年を取って、単なる中年になるかクラシックカーになるかで致命的に価格が分れていくんですね。	森中 卓郎
	プロは反常識、非常識の発送が必要である。ただし、反常識、非常識が次なる常識に	

292	ならなければ単なる変わり者に過ぎない。次なる常識を作るためには、常識の範疇を超えた仮説を立てることだ。そしてその仮説が次なる常識になった時、その人はプロとして認められる。	田原 総一郎
293	仮説が作れる人間には希望がある。	田原 総一郎
294	方針とは、考え方(基本理念)プラス具体的な目標プラス夢(理想)である。	松下 幸之助
295	たとえ毎日1%の改善でも、1年続けば37倍になる。	三木谷 浩史
296	教養が広ければ広いほど、行き詰った時のヒントを広く求めることができる。そして、そこから自分なりの価値観や考え方を明確にして行く。	平山 郁夫
297	基礎練習を続けること。つまり、「部品」をみがき続けることで素晴らしい完成品が生まれてくる。	平山 郁夫
298	「部品みがき」に行き詰ったら、ピラミッドを思い浮かべ「底辺」を広げることは「高さ」を出すことだと、自分に云い聞かせることが大切。	平山 郁夫
299	ピラミッドの底辺は、あなたの礎石、土台となる部分です。そして高さとは、あなた自身の価値観のことです。基礎的なことを学べば、自然と自分自身の価値観が大きく育って行くということです。	平山 郁夫
300	自分の可能性を広げ、自分自身の方向性を見つけ出すためにも、まず最初に基礎的な勉強をしっかりとやるのが大切。	平山 郁夫
301	才能は有る無しではなく、いかに引き出されたか否かの違いです。世間で云っている才能がある人とは、しかるべき時にしかるべき方法で才能を引き出された人のことです。いわゆる才能がある人の周りには必ず褒めた人がいて、次にその本人がその褒め言葉に簡単に乗る調子の良さを持っている。	渡辺 淳一
302	成功は、そう呼ばれた瞬間から陳腐化して行くものである。環境は絶えず変化しているので、自他ともに成功事例の復習は無意味なのだ。	柳井 正
303	日々の一步一步、あるいは一進一退の悪戦苦闘こそが将来の姿につながって行く。将来を決めるのは、現実・現在の自らの行動である。	柳井 正
304	40才というのは、ひとつの大きな転機であって、それは何かを取り、何かを後に置いて行くことなのだ。その精神的な組み換えが終わってしまったあとでは、好むと好まざるとに係わらず、もう後戻りできない。それは前にしか進まない歯車なのだ。だからこそ、こうなる前に何かひとつ仕事を残して置きたかった。	村上 春樹
305	教養が広ければ広いほど、行き詰った時のヒントを広く求めることができる。そして、そこから自分なりの価値観や考え方を明確にして行く。	平山 郁夫
306	基礎練習を続けること。つまり、「部品」をみがき続けることで素晴らしい完成品が生まれてくる。	平山 郁夫
307	「部品みがき」に行き詰ったら、ピラミッドを思い浮かべ「底辺」を広げることは「高さ」を出すことだと、自分に云い聞かせることが大切。	平山 郁夫
308	自分の可能性を広げ、自分自身の方向性を見つけ出すためにも、まず最初に基礎的な勉強をしっかりとやるのが大切。	平山 郁夫
309	才能は有る無しではなく、いかに引き出されたか否かの違いです。世間で云っている才能がある人とは、しかるべき時にしかるべき方法で才能を引き出された人のことです。	
310	いわゆる才能がある人の周りには必ず褒めた人がいて、次にその本人がその褒め言葉に簡単に乗る調子の良さを持っている。	渡辺 淳一
311	社長の第1条件は、器の大きさと人としての誠実さに尽きる。その上で欠かせないのが、「苦勞を楽しむ」という精神である。	宮崎 輝
312	人間を能力以下に置くのは、むしろ罪悪である。	土光 敏夫
313	世の中には寝るほど楽はなかりけり。	大谷 光太郎

314	人間なんてものは、どんなに恰好をつけても一皮むいたら、色んな欲望の塊みたいなものだ。でも、だからこそ、その一皮のプライドを大切にしなきゃいけない。それが文化というものだろう。	北野 武
315	大きな事故は「安全遵守」に向けた劇的な変貌をもたらすが長続きしない。事故直後の安全への投資は、それによる無事故が続けばやがて生産向上に振り向けられてしまう。その歯止めになるのが安全文化である。	毎日新聞 余禄
316	安全文化は「達成するもの」ではなくて、常に「努力すること」なのである。	毎日新聞 余禄
317	本当に結果を出すためには「結果より変化」の発想が大切だ。未来への変化を可能性といい、過去への変化を成長という。人と接する時にも変化を生み出すための時間軸の見方はすごく大切。	佐渡 裕
318	努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。	井上 靖
319	リーダーの仕事は火事を消すことではない。火事を起こさない仕組みを作ることである。	トヨタの口癖
320	能力はすぐに伸ばせないが、考え方はすぐに変えられる。	永守 重信
321	雪深いところの広葉樹というのは全部葉を落とす。雪がたまと枝が折れるから自ら葉を落として保護している。針葉樹は雪のたまる量が少ないから別に葉を落とさなくていい。逆に、葉が繁る杉のようなものは脱皮する。植物でも努めている。そして、冬の間根を下ろしている。年輪を付けている。人生について云いたいことも、この年輪を付けるということ。努めるというのは、広い意味での忍耐、修行である。努めるということは、そういう要素がある。努めることをしない人は、社会の役に立たない。	升田 幸三
322	経験とは前のことをもう一度繰り返すことではない。新しいことを失敗なしに、やり遂げることが真の経験だ。	大原 孫三郎
323	人はこれで良いと思った時点で成長が止まる。	倉橋 隆行
324	「読み」というのは、読むことによって、哲学を考えるということ。自分の生き方を考える。「書く」ということは、書くことによって、自分の考えを表現すること。「算盤」というのは、単なる数勘定ではなく、人生を計画することです。自分の人生を計画するのに、過去をどう考え、未来をどう考えるか。そのために、読み・書き・算盤ができないといけない。	安藤 忠雄
325	行く道は精進して、忍びて終わり悔いなし。	酒井 太阿閣梨
326	その場では直接的な発見がなくても、優秀な人たちと会話すれば、それだけで脳に色々な刺激を与える。こうした積み重ねが、いざという時にヒラメキに化けてジャンプアップのきっかけになったりする。	丹羽 宇一郎
327	勝つためのアプローチは(勝つ分化をつくる)、第1に「大義」がありその下に「覚悟」と「ビジョン」「ハードワーク」がある。	廣瀬 俊朗
328	自分の生い立ちという「タテ糸」と教養を身に着けた「ヨコ糸」が交じり合った時、ひらめきが生まれてくる。ロボットを月に向けて発射する時、途中で「軌道修正」は必要に応じてやらなければならない。しかし、真っ直ぐ月へ到達するためのもので、途中で月へ向かうという目標を変える訳ではない。	平山 郁夫
329	アートの業界で生きていくなら、「この世界のルールを1から10まで把握した上で、しっかりターゲットを絞ってターゲットに向かって弾を撃つ」というやり方をしなければ勝てない。「執念」が必要。尋常ではないほどの執着力を持ち、何があってもやり通す覚悟があるならば成功できる。	村上 隆
400	外国語は、多くの人にとってのそれは、意思なり想いなりを他者に伝える水準で留まる。ところが、母国語は伝達の道具だけでなく、考える道具にもなる。頭で考えることを言葉にして表現すると、それが声になって自分の耳に入ってくる。言葉として返ってきたそれが、今度は自分の頭を刺激して、口に出さなかった前にははっきりしなかったことも、はっきりするようになる。	塩野 七生
	三流の人は、人の話を聞かない。	

401	<p>二流の人は、人の話を聞く。 相手の話は自分の2倍聞け。 一流の人は、人の話を聞いて実行する。 超一流の人は、人の話を聞いて工夫する。</p>	羽生 善治
402	<p>信頼は98%、あとの2%は相手が間違った時の許しのために取っておく。この世に完璧な人間などいない。心に2%のゆとりがあれば、相手の間違いを許すことができる。</p>	渡辺 和子
403	<p>子供をやる気にさせる4つのスイッチ ①競争することが好き ②子供はまねしたがる ③ちょっとだけ難しいことをやりたがる ④子供は認められたがる 向上心を刺激する できる子を観察して努力する 自分は成長したいという本能を持つ 天から与えられた才能を引き出す 子供はみんな天才 達成感を与える できる事は面白い どんどん進む 正のスパイラル</p>	遠山保育園
404	<p>思い通りにならないと感じた時には、ちょっと立ち止まって考えることも大切だ。 「自分は甘えていないか」 「勝手な理屈で自分を正当化しようとしていないか」 「うなく行かない責任を他人に転嫁していないか」 そして立ち止まって考えるためには、もう一つ大事なことがある。 それが、「自分自身を客観視する」ということである。</p>	平尾 誠二
405	<p>一日一回深呼吸して、必ず心を鎮める時間を作りなさい。</p>	稲盛 和夫
406	<p>「敵は己の妥協にあり」 自分の限界を自分で決めるのではなく、自分の限界を少しずつ超えることで、成長することができる。</p>	井村コーチ
407	<p>自信とは、「自分のしてきた努力を信じる」ことである。 努力とは、自分を納得させるために行うもの。たとえ、目に見える成果が出なくても目に見えないところで着実に(自分は)成長している。</p>	イチロー
408	<p>勉学や向上の道すがらの努力や苦労には、何ひとつ無駄はない。</p>	川上 哲治
409	<p>「正気か？」と言われたことは、やった方がいい。 「それはいい」と言われたら、それはすでに誰かがやっている。</p>	御手洗富士夫
410	<p>「その商売の魚になれ」。泳いでいる姿が当たり前。プロとして当たり前に見えるということ。</p>	北野たけし
411	<p>もしも、ある程度の行き違いや過ちがあったとしても、それが前向きの姿勢であり、正さを信じての行動であれば、それは「若気のいたり」として許されるものだ。</p>	本田宗一郎
412	<p>遺伝子には目覚めて機能するONと眠っていて機能しないOFFの部分がある。 伸びる人は眠れる良い遺伝子呼び起こすことがうまく、それが下手な人は能力や才能を持ちながらも伸びきれない。潜在能力の差ではなく、遺伝子の目覚め方の差である。 願望を持ち思っている人は、常にそのことを考え、目的に近づく行動をよく起こす。 思考も行動も遺伝子を目覚めさせる大きな要素。</p>	村上和雄
413	<p>一つの成果が実るとき、その背後には膨大な準備の期間、試行錯誤の期間がある。 植物を育てる時と同じように大地を耕し、肥料を施す「ふせ込み」の期間がないと人生の花は咲かない。</p>	村上和雄
414	<p>英語では商品を“goods”という。“よい”という意味の形容詞goodがいくつか集まるとgoodsになる。 これはドイツ語でもフランス語でも同様である。それぞれgut→guter, bien→biensになり、財産や商品という意味になる。このことは、商品は本質的に“よきモノ”でなければならないし、それが“よき暮らし”に繋がることを示唆している。</p>	花王の…
415	<p>真珠貝の真珠の核となるのは、ゴミのようなものや傷である。そこにくると気品高く輝く真珠の被膜を作って行く。それが大きくなって真珠になる。 人生の初期、10代や20代にいくら失敗や間違いがあっても、それを乗り越えていく、前向きな気持ちを持っていると、いつの間にか自分が美しく輝く真珠になることが出来る。</p>	櫻井よし子
416	<p>志は気の師なり。夢は志の母なり。</p>	梶原

	志を持つことが、やる気のもとである。志を持つ前提には、夢があること。	(岐阜県知事)
417	「できない」理由は三つあるという。第一に今までのやり方ではできない。 第二に今すぐに100%はできない。第三に自分一人あるいは自分たちの部署だけではできない。 大切なのは、「できない」と思えるほどの難局をどう乗り越えるかを考え、チャレンジ精神を持って実行して行くことである。 人間は逆境に立たされてはじめて新しい発想を生み出す。 未来は開かれ、常に可能性で満ち溢れている。	坂田浩一
418	人は誰でも長所と短所を持っている。大切なのは、その人の長所を伸ばして育てることだ。 人は長所を活かすことによって個性的になり、短所は徐々に陰をひそめてしまう。	神近義邦
419	失敗は恐れるものではなく、その経験を踏まえて自分の財産にすべきものである。	堀場厚
420	頭の質は意欲と集中力によって高まるのであり、それにより初めて自己実現、自己達成ができる満足感が得られる。	飯田亮
421	プロの先生から水泳に関する講義を受けたとしても、すぐに泳ぐことはできない。 やはり泳ぐには、水につかって、水を飲んで苦しむという過程を経ることが必要である。 その後によろやく講義が役に立ってくる。	松下幸之助
422	鉄の子をを少し教育すれば、すぐに金メッキすることができる。しかし、一番かわいそうなのは、その金メッキは直に剥げてくること。メッキが剥げたら不幸に陥る。 鉄は鉄として、メッキをしないで鉄としてどう生きていくかということも大切である。	中坊公平
423	鉄に炭素を含浸させると鋼になって、鉄より強くなる。クロームも入れると、錆びないステンレスになる。上に塗っても何も変わらないが、中に染み込ませれば、鉄とは違った性質を持つ、すぐれた物質に変化する。	中坊公平
424	「オイアクマ」・・・ 「怒るな」、「威張るな」、「焦るな」、「腐るな」、「負けるな」 → 忍耐する → 自分に負けるな	堀田庄三
425	人間は、生まれながらにして三つの資源を持っている。それは「心」「時間」「言葉」である。「心」は「志」と置き換えてもよい。時間は、意識の持ち方次第で密度が濃くなったり、薄くなったりする。何となく過ごしている人と、限られた時間の中で何かをしようとする人では、時間の密度がまったく違う。言葉や心も同じである。 色々な経験を積んできた人の言葉は洗練されている。目標を持ち続けている人の心は輝いている。夢を実現するためには、こうした豊かな心や言葉が大きな武器になる。	竹村健一
426	夢が何であるにせよ、自分一人では実現できない。周りの協力なしでは叶えられない。 その時に周りの知恵や力を借りる最大の武器は、豊かな「言葉」や「心」である。	竹村健一
427	成功はチャンスと準備の出会いである。目の前にチャンスが転がっていても、それを生かす準備をしていなければ成功には結び付かない。	竹村健一
428	凡人が天才になることはできない。しかし、凡人でも小さな失敗を繰り返し直接体験することで、賢人になることはできる。小さな失敗を次々と経験するためには、常に新しい挑戦を試みて行かなければならない。そうすれば、知恵を絞ることによって天才以上の「差別化」を考えることができる。いかなる凡人でも天才的なIQの持ち主にも勝る画期的な仕事を成し遂げることができる。	堀紘一
429	「病は気から」である。ビジネスも、ファイティングポーズを取る気持ちを失くしてしまったら、どんなに才能に恵まれていても一巻の終わりである。	堀紘一
430	経営者とは、時代の流れを的確に読み、短期・長期の戦略を適切に立て、活力ある企業風土を構築し、会社の繁栄を持続させるように業を運営する、企業の責任者。 形営者とは、形だけの企業トップマネジメントに位置しているが、格別の見識もなく、企業をリードする気力も能力もない役員(厄員ともいう) 刑営者とは、自己には甘い部下のミスは絶対に許さず、厳しい減点主義により企業の活力・創造力を低下させる暴君的企業リーダー。 管理者とは、常にプラン、ドゥ、チェックを怠らず、失敗を恐れずにアクションを積極的に起こす本当の管理職。 汗理者とは、行動的だが、失敗を恐れ、冷や汗の乾く暇のないチームリーダー。 官理者とは、上司に抵抗せず、部下には代官か役人のように威張り散らすミドル。	池森賢二

	<p>患理者とは、宴会、麻雀と毎日毎晩午前様、健康管理もままならず、胃腸、胸焼け、高血圧と薬を浴びるほど飲んでいる中年ミドル。</p> <p>技術者とは、1%の可能性に掛けて自助努力を惜しまず、研究開発を部下と一緒にいき、部下の能力を最大限に引き出すことのできるテクニックのプロ。</p> <p>擬術者とは、話を聞くといかにも技術のプロだが、中身は空っぽ、でたらめばかりの見せかけ名人。</p> <p>欺術者とは、「できます」「やれます」「考えます」。返事の良さにだまされ、いつまで待ってもできあがらない。約束の時間に完成したことは一度もない。</p> <p>議術者とは、チームワークが何より大切。意思の疎通は会議が一番。朝から晩まで会議、会議の連続。でも一人でかかんがえるクリエイティブワークは??</p> <p>社員とは、企業の構成員として与えられた業務を忠実に遂行し、一段上の役職者に等しい良識、見識を身に付けるよう努力を惜しまないビジネスマン。</p> <p>写員とは、学校を出るまで規則で縛られ、社会に出たらマニュアル式の人材教育。個性をどこかに置いて来てしまった金太郎飴社会人。</p> <p>捨員とは、自己啓発のチャンスを与えても反応はゼロ。忙しければ上手くさぼる。粗大ゴミは捨てたいが、うっかりクビにもできないし。</p>	
431	<p>リーダーシップの基本は人をひきつけること。 人をひきつけるリーダーとは、部下を好きになれる人物である。</p>	大富敬康
432	<p>人生は志向でありドラマである。 自ら演じる人生劇場の脚本を自らの手で書かなければならない。 また人生は意識する時間の総和である。 自ら演ずる人生劇場を休みなく開くか、店じまいするかはあなたの人生観いかんである。 意識する、意志を持って志向する。人生に働きかけるこの態度の積み重ねが人間の形成に繋がる。</p>	ヤマハ 川上嘉一 (田辺昇一)
433	<p>「伸びる男の16か条」から・・・</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.早起させよ。「午前5時から男」で動け。 2.イエスカノーの選択を迫られた時は、確率が5分ならゴーを選べ。 3.好奇心の強い奴は出世する。 4.飲み代はツケにするな。金銭感覚はシビアに持て。 6.約束の時間に遅れるな。 7.社外に最低30人位は、異業種の友人を持て。 9.頭と体をウォーキングせよ。 10.人生は運6分、しかし運は努力で引き寄せられる。 11.何事も決めたことの継続が基本と心得よ。 13.上昇志向をバカにするな。志は高く高く。 14.沈黙は銅、雄弁は銀、行動こそが金である。 15.耐えて頑張れば、女神がやってくる。 16.人生は回り道も、時には必要だ。 	牧野昇